

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぱすてるぴいす		
○保護者評価実施期間	令和6年11月20日 ~ 13日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和6年11月20日 ~ 13日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月3日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	権利擁護会議	法人会議組織だけでなく、毎月開催の事業所内会議で情報共有や勉強会が行われている	会議の様子の外部発信
2	活動立案会議	毎月、児童から聞き取った意見や情報を持ち寄って、担当一人に依拠しない形で活動を考えている。自立に向けた活動も取り入れている	会議の様子の外部発信
3	保護者とのやりとり、親子活動	連絡帳、職員からの申し送りなど、保護者とのコミュニケーションは密。年に一度は親子活動をして職員と、あるいは保護者同士での交流機会を設けている	連絡帳をICT化してより手軽に受発信できるようにする。面談にとどまらない密な情報共有・相談援助(家族支援の充実)。年1回以上の親子活動の継続と、その様子の外部発信
4	研修機会の提供	外部研修について法人から発信がされている。内部研修もいくつか開催されている	外部研修で得たことを事業所にフィードバックできる仕組みを整備する(受講者を講師とした勉強会の開催等)
5	成人施設へのステップアップや体験	B型や生活介護の事業所が法人内にあって体験が容易にでき、同じ職員に見守られながらステップアップができる	体験活動を定期的なものとして年間予定に組み入れる
6	個室スペース、体育館など空間の充実	個室スペースや体育館を活用し、静かに過ごしたい人、体を動かしたい人などそれぞれ過ごしやすいようにしている	活動の中で有効に活用するのはもちろん、そのメリットを積極的に相談支援等へ発信していく。個別性を重視し、児童本人にとってより過ごしやすい空間・動線設計を追求する

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報共有、ヒヤリハット等の閲覧性	ヒヤリハットや事故報告など、記録されたものがそれ以上周知される仕組みが整っていない	綴ることで誰でも見られる状態にはあるが、きちんと目を通し共有する仕組みが必要(会議で取り上げる、議事録同様LINEWORKSで共有するなど)
2	職員の資質向上、チームワーク向上	研修機会が多くありながら、その成果を業務の中に活かきれていない。新しい取組みなど始めると、担当を決めて人任せにする傾向が所々に見られる。決められたルールが維持できないことがある	「分からないことをそのままにしない」意識改革。日常的に意見を交わせる風土づくり。ツール導入やプロジェクト等始動時の、丁寧な説明と指導
3	スケジュールを用いた個別支援	全体のタイムスケジュールが掲示されているが、かえって個別支援としては弱い状態になっている。個別性を重視した支援、という中長期目標について実態がそぐわない	他事業所を参考にするなどして、児童個々のスケジュールを作成し試行・検証する取り組みを一人ずつ、丁寧に実施する。短いスパンでPDCAを回し、より効果的な方法を追求する